

校長室の窓

子どもが作る 弁当の日

— 自分でできるもん！ —

ここ数年、毎年のように若い先生方を迎えています。本校でも、担任の半数は20代の先生方です。その働きぶりを見ていると、若いながらセンスがいいなど感心することがあります。ベテランが長年の経験でようやく会得する技術や感覚を、未熟ながらすでに身につけているのです。私たちの仕事は専門職ですから、誰もが一定以上のスキルをもつ「職人」であり、その中でもより高い指導力をもつ「達人」や「名人」によって学校は支えられています。

同じように、子育てでも意識せずに「達人」の境地に達している保護者の方も、まれにいらっしゃいます。

「明日弁当がいるんだって。」「ええー、なんでもっと早くいわんの！もうスーパーも開いてないが！」「前にももらった学年だよりに書いてあったよ。」「そうだったっけ。忘れてた。明日の朝は仕事で早出だから、作る暇がないよ。どうしよう。おにぎりでもいい？」「やだあ、ハンバーグがいい。」

こんなとき、並の家庭では「子どもを当てにせず自分で予定表をチェックしよう」とか、「せめて二日前に言わせるようにしよう」とか、「もうちょっと早めに連絡帳に書いてもらうよう担任にお願いしよう」とか、「困らないように冷食を多めにストックしておこう」とか、対策を考えます。でも、子育ての「達人」は「自分で作れるようにしてやろう」と考えるのです。ただ考えるのではなく、それを実行に移します。調理の基本、献立作りなど、手助けは最小限にして、失敗を恐れず、あきらめるほど根気よく取り組ませます。すべては、その子の自立のために…。子育ての達人は、「ここぞ」というポイントを知っている。そして、それを楽しみながら続けられる人だと思います。

子どもが自分で弁当を作ること、それにこめられた願いは、自立する心と力、家族や社会への感謝の気持ちを培うことです。本校では、あま市およびあま市教育委員会の指導の下、市内では初めての試みとして、5年生で実施することになりました。児童にとっても、また関係職員にとっても大きな挑戦となります。本校と伊福小学校がモデルケースとなって、順次市内各校にこの取り組みが広がる予定です。2月27日（月）の実施当日に先立ち、2月8日（水）の調理実習、22日（水）の当日の献立作りを授業公開します。いずれも5年生の保護者の皆様にはご案内済みですが、他学年でも興味をおもちの方はお知らせください。



【やる気満々、どんな弁当作ろうか】



【5年向けオリエンテーション】

「明日、弁当がいるから、材料を買ってくるよ。ついでにお母さんの分もつくるから、何か食べたいものある？」

なんて、さっそうとエコバッグを提げて出かける我が子を想像してください。頼もしいじゃないですか。（ちなみに、我が家ではこのひとことが出るまでに10年近くかかりました。）